

転 載

新潟県・新発田北蒲原郡医師会報第515号（平成20年2月号）より執筆者ご了解のもと転載いたします。

—広報委員会—

頑張れ、夕張

新発田支部 川井和夫

平成20年は「ゆく年くる年」の除夜の鐘で新年を迎えた途端に、威勢のいい夕張の若者達が叩く勇壮な「夕張太鼓」を日本中に鳴りひびかせながら、元日の幕を開けた。粉雪の舞う夜空を背景にライトアップされた夕張の初詣の人達の表情は皆明るく、そして晴れやかだった。

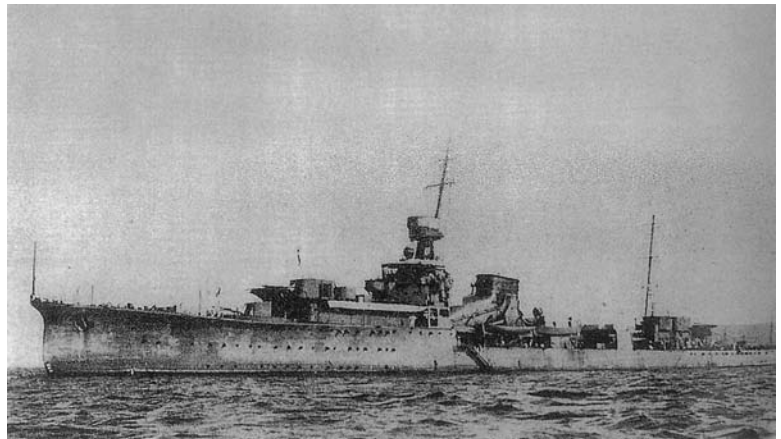
NHKが先頭に立って夕張を応援している。私は嬉しかった。そして遠い60数年前の昔に想いを馳せるのだった。

昭和19年、私達新潟中学校（今の県高）3年生は、勤労働員で勉学を投げうって、新潟の臨港埠頭で船から陸への石炭揚げの作業に明け暮れていた。日本列島という弓の弦に当たる最短距離を、まだアメリカ潜水艦の危険のない内海の日本海を、夕張で掘り出した石炭が小樽港から新潟港へ送られ、新潟から貨車で全国の軍需工場へばら撒かれていった。今アラブからインド洋を石油を運ぶ日本の巨大タンカーが行列を作って行き来しているように、当時の日本の戦力のエネルギー源は、北海道で採れる夕張炭であり、2、3千トンの石炭船が腹一杯に石炭を積み、吃水を深く沈めて新潟港沖で行列を作り、帰りは赤い船腹を高々と出して北海道へトンボ帰りをしていた。私達中学生は炭塵舞う船底でスコップを手に、空き腹に昼食にもらうたった1個のコッペパンを楽しみに、汗だくで真黒くなりながら、石炭をモッコに積上げてゆく戦う中学生だった。

夕張よ、君はかつて戦う日本のエネルギーを一人で背負って立ち、その名声は日本中の小中学生にまで知れ渡っていた日があったのだ。今在宅酸素だ、寝たきりだ、透析のため数十キロ離れたよその町の病院まで通うという老人達は、かつては山の戦士といわれた石炭掘りの名手達であったはずだ。今を去る60数年前、戦う日本のエネルギー源という栄光の日が確かに君にはあったのだ。

夕張よ、もう一つ君には君の名を世界に輝かせたことがあった。この石炭より20数年ほど前に話は遡るが、日本海軍が軽巡洋艦その名も「夕張」という軍艦を作った。日本の軽巡洋艦は、天竜、木曾、最上、阿武隈、利根など川の名前がつけられる慣例になっていて、軍艦夕張は、夕張川からの命名である。当時はワシントン軍縮会議（大正10年）で日本海軍の台頭を脅威とした米英が、5・5・3の比率の戦艦保有量を日本に押し付けてきた頃で、今にすれば核保有国同士の中で、核保有量の規制の枠をある国が一方的に不利な条件で押し付けられたことにも匹敵する国際的な大問題であった。日本海軍はこの5・5・3の比率を涙ながらに呑まされ、国民の憤慨はその頂点に達し、やがて20年後の大戦の火種ともなった。

その頃日本海軍に軍艦造りの神様といわれた海軍造船中将平賀譲（東大工学部造船学科教授のち東京帝国大学総長）がいて、ワシントン条約の規制外の補助艦で対抗すべく、軽量の艦にいかに最大の戦力を搭載できるかという発想のもと設計された実験艦が軽巡洋艦「夕張」だった。それまでは明治の名残りの三本煙突、四本煙突の旧型艦ばかりだった日本海軍軽巡洋艦群の中へ、初めて波型のフレアーと斜めに傾斜した一本煙突というスマートな艦型で登場し、僅か3,500トンの小軀に5,500トン級軽巡洋艦と同じだけの精一杯の武装をした軍艦夕張が、太平洋の波間に躍り出た時（大正12年）、世界中の海軍は瞠目しあっと驚いた。夕張の名は、世界の海軍国で一躍有名になり、競って夕張に範をとろうとした。日本海軍は夕張を実験艦として、ただ一艦のみにとどめ同型艦を作らず、この成功を基本構想として大型化の方へは、重巡洋艦古鷹・青葉級、更に妙高・愛宕級へと発展させ、この流れの最先端に戦艦大和、武蔵がいる。一方夕張を起点に小型化したもので、大東亜戦争中もっとも活躍した例の特型駆逐艦約80隻が造られている。大東亜戦争を戦った駆逐艦から軽巡洋艦、重巡洋艦、大戦艦までの全てが、夕張を原型としてそこから発展していったものだった。言わば造血幹細胞みたいな艦、それが夕張だった。君の名は、今でも日本造艦技術の粋として、世界の軍



軍艦「夕張」

艦年鑑に燦として輝いているはずである。

軍艦夕張は、大東亜戦争で緒戦から南の海で華々しく活躍し大きな戦果を挙げてきたが、残念ながら昭和19年4月27日にアメリカ潜水艦の雷撃を受けて沈み、今もパラオ諸島の南方の海底で静かに眠っている。

夕張炭といい、軍艦夕張といい、君の名はかつて日本の希望の星であり、日本の誇りだったのだ。栄枯盛衰は世の常とはいえ、その頃の君の名声を知っ

ている者も残り少ない日本となったが、君にはかつて日本の夕張であり、世界の夕張でもあった栄光の日があったことを、今の君は知るや知らずや、この二つのことだけは、是非君に伝えておきたいと思う。

今年の日本は「夕張太鼓」で明けた。「明けない夜はない」というのではないか。まだ苦難の道は始まったばかりだが、いずれ遠からぬ日に必ずまた君の名が日本の夕張、世界の夕張として輝くことを信じて頑張っしてほしい。夕張の再興を祈るや切である。

道医の動き

- 2月11日 学校心臓検診推進委員会、母子保健対策推進委員会、日本集団災害医学会(目黒常任理事)
- 2月12日 三役会、第22回常任理事会、広報委員会、地域福祉部担当理事会
- 2月13日 都道府県医師会廃棄物担当理事連絡協議会(直江常任理事)
- 2月14日 日医広報委員会(長瀬会長)
- 2月15日 指導医のための教育WS講師打合せ、日医勤務医委員会(直江常任理事)
- 2月16日 第6回全理事会、医療政策部担当理事会、指導医のための教育ワークショップ(~17日)
- 2月17日 日医医療情報システム協議会(畑副会長、藤原常任理事)
- 2月18日 北海道保健福祉部との打合せ、北海道社会保険事務局との打合せ
- 2月19日 日医理事会(飯塚顧問)
- 2月21日 日医がん対策推進委員会がん検診小委員会(畑副会長)
- 2月23日 健康スポーツ医制度再研修会、健康スポーツ医学推進委員会、日医学校医講習会(長瀬会長、三戸・榊山各常任理事)
- 2月24日 医事紛争処理委員会郡市委員連絡協議会、日医母子保健講習会(三戸常任理

- 事、城理事)
- 2月25日 三役会
- 2月26日 第23回常任理事会
- 2月27日 医事紛争処理委員会
- 2月28日 北海道自動車保険医療連絡協議会
- 2月29日 都道府県医師会事務局長連絡会
- 3月 1日 郡市医師会介護保険担当理事連絡協議会、糖尿病市民講演会(釧路市、藤井常任理事)、唐澤祥人日医会長候補選对本部事務所開き(長瀬会長、宮本・畑各副会長、深澤常任理事)
- 3月 4日 勤務医懇談会(函館市、長瀬会長、三宅・畑各副会長、山本・北野・目黒・藤原・橋本各常任理事)
- 3月 5日 都道府県医師会社会保険担当理事連絡協議会(長瀬会長、三宅副会長、西里・榊山・直江各常任理事)、日医感染症危機管理対策協議会(三戸常任理事)、日医会員の倫理・資質向上委員会(上埜理事)
- 3月 6日 都道府県医師会情報システム担当理事連絡協議会(藤原常任理事)、「新たな死因究明制度等」に関する都道府県医師会担当理事連絡協議会(長瀬会長、三宅副会長、山本・北野・直江各常任理事)
- 3月 7日 北海道保健福祉部による公益法人検査在宅緩和ケア対策推進事業
- 3月 8日 日医医療政策シンポジウム(三宅・宮本・畑各副会長、榊山・山本・藤原・深澤・直江各常任理事)、サテライト放映(会場：北海道医師会館)
- 3月10日 三役会、日医自浄作用活性化委員会(深澤常任理事)